

令和5年度 「家庭総合（3年）」シラバス

「家庭総合」	単位数	学科・学年
	2単位	普通科・第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書・副教材等	「家庭総合」－明日の生活を築く－ 開隆堂

2 学習計画及び学習のねらい

学期	月	学習内容 「いつ何を学ぶのか」	学習のねらい 「何ができるようになるのか、どのような力が身につくことをめざすのか」
第1学期	4	3年次の「家庭総合」の学習について 消費者市民として生きる ① 消費者の権利と責任 ② 持続可能な消費生活	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭総合」を学習するにあたって、学習の意義や内容・方法・評価について理解します。 ・生活事象を総合的・多面的にとらえ、自分と他者と交流し、実習や実践をしながら学びます。 ・消費生活の現状と課題、消費者問題や消費者の自立と支援等について理解します。 ・日本と世界の消費者運動の動きを理解し、消費者の権利と責任について考えます。
	5	高齢期の生活と福祉 ① 高齢者とかかわる ② 高齢者の生活と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心身の変化と特徴や生活について、交流を通して理解します。 ・生涯を見通して高齢期をとらえるとともに、高齢者の身体的、心理的特徴について理解します。 実習1【高齢者疑似体験】 ・家族形態の変化に伴う、家族・社会の抱える今後の課題について考えます。 ・高齢者の意思の尊重や残存能力を生かす生活支援の在り方について考えます。 ・日常生活の介助を体験し、尊厳を守るケアに関する理解を深めます。 ・相手のニーズやペースに合わせることやコミュニケーションの重要性について考えます。 ・高齢化の特徴や居住地域の高齢化の状況について理解します。 ・高齢期を豊かに、魅力的に生きるには何が必要かを考えます。 ・高齢者福祉について理解し、現状の課題について考えます。 ・様々なりスクに遭遇する可能性があることに気づき、社会福祉の種類と活用を理解します。
	6	③ 高齢社会の課題と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーションの理念を土台とした社会を作ることが需要であることを理解します。 ・共生社会の実現に向けて、自分のできることは何、情報を収集・整理したり、実践に生かすなど、支え合う活動に必要な技術を身につけます。 ・共生社会に関心を持つとともに、社会の一員としての自覚を持ち、ボランティア活動や支え合う活動など、行動できる力を身につけます。
	7	④ 共生社会における地域や家族 食べる ① 食品と栄養 ④ 食事を調える	<ul style="list-style-type: none"> 実習2【防災食作り】 ・日常用いられる食品から栄養的な特質などを理解します。 ・日常の献立の手順を理解し、食品群別摂取量の目安を満たす一日分の献立について考えます。 ・調理による色、味、テクスチャーなど饒辺かを食品の変化とかかわらせて科学的に理解し、また調理法の特徴について、調理器具の特徴や取り扱いなどを理解します。 実習3 郷土料理：【硬ジューシー、イナムドウチ】 実習4：【高校生の弁当作り】

第 2 学 期	9	着る	<ul style="list-style-type: none"> ・時と場合、目的に適した被服材料や被服の構成及び被服の機能を生かした適切な着装を考えます。 ・着装に関心をもち、自分の個性をみつ、自分らしい着装について考えます。 ・衣生活を管理する知識と技術を習得します。 ・組成表示や取り扱い絵表示を確認し、着心地や管理を考えた被服の選択ができる力を身につけます。 ・被服材料の性能改善と着心地などについて考えます。 ・どのようにすれば健康で快適な衣生活を送ることができるのかを考え、自分の衣生活をふり返ります。 ・洗濯や手入れなど自ら衣服を管理する知識と技術を身につけます。 ・和服と洋服の構成上の特徴や被服材料、着装の特徴を理解し、衣服製作の意義と工程を考えます。 ・衣服製作の基本を知り日常生活に必要な基本的な縫い方の技術を習得します。
		①人間と被服	
第 2 学 期	10	②衣生活の自立と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯や手入れなど自ら衣服を管理する知識と技術を身につけます。 ・和服と洋服の構成上の特徴や被服材料、着装の特徴を理解し、衣服製作の意義と工程を考えます。 ・衣服製作の基本を知り日常生活に必要な基本的な縫い方の技術を習得します。 <p>実習5 ①基礎縫い：ぞうきん縫い（並縫い、ミシン直線縫い）</p> <p>②ハーフパンツ作成（ミシン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣生活文化の変化と伝承・創造について考えます。 ・布を使った伝統的な生活の工夫を取り上げ、現代に生かすことを考えます。 ・洗濯が環境に与える影響について認識し、配慮すべきことを考えます。 ・資源の有効利用の観点から循環型の被服計画の必要性について理解します。
		③被服をつくる	
第 2 学 期	11	④衣生活の文化	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと実際にかかわり、子どもは生活の中で人とのかかわりを通して育つことを理解します。 ・子どもの発育・発達には、個人差と一定の順序と共通性があることを理解し、周囲の大人の役割、養育態度の関係について考えます。 ・子どもの心の発達の特徴を理解し、乳児期や幼児期の中心となる活動や言葉、自己や他者とのかかわりについて理解します。 ・遊びの意義や児童文化の子どもへの影響について考えます。 ・家庭保育と集団保育の意義を理解します。 <p>実習6【子どものおやつ作り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを育てることや社会的意義や子育てに両性がかかわることの意義を考えます。 <p>実習7【妊婦体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛着形成や将来の人間関係の基盤について考え、保育の責任は親と社会の支援であることを理解します。 ・地域社会の一員として身近な子どもとの関わりについて考えます。 ・近年の子どもを取り巻く環境の変化について考えます。
		⑤衣生活と環境	
第 3 学 期	12	子どもの発達と保育・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場として住居をとらえ、その基本的な機能に関する知識を習得します。 ・生活様式や住居の形、社会制度や文化の変遷に応じて変化してきたことを理解します。 ・各ライフステージに応じた住居、人間と住居とのかかわりについて考えます。 ・家族の生活に応じた適切な住居の計画や選択ができるように、必要な知識と技能を習得します。 ・家族の生活の場としての住居の条件について生涯を見通して考えます。 <p>実習8【平面計画シール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適、かつ健康で耐久性のある住居に必要な機能について理解します。 ・快適な住まいの工夫を考えます。 ・住居を長く社会の資産にしていくための持続管理や長期使用の必要性などについて考えます。 ・住まいとまちのかかわりを考えます。 ・住環境にかかわる社会的なしくみについて理解します。
		①子どもとかかわる	
第 3 学 期	1	②子どもの発達と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・生活する上で重要な要素が、生活資源であることを理解します。 ・自分が現在そして将来行いたいことを具体的に考え、そのためには何が必要なのかを考えます。 ・社会的文化的活動時間の意義を理解し、性別役割分業にとらわれず生活設計に取り組みます。 ・将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を理解します。 <p>実習9【家計管理マスターシール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが必要か、個人でできることと、社会全体で取り組むべきことを考えます。
		③親の役割と子育て支援	
第 3 学 期	2	⑤ 子どもの権利と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適、かつ健康で耐久性のある住居に必要な機能について理解します。 ・快適な住まいの工夫を考えます。 ・住居を長く社会の資産にしていくための持続管理や長期使用の必要性などについて考えます。 ・住まいとまちのかかわりを考えます。 ・住環境にかかわる社会的なしくみについて理解します。
		①住まいと生活	
第 3 学 期	3	住まう	<ul style="list-style-type: none"> ・生活する上で重要な要素が、生活資源であることを理解します。 ・自分が現在そして将来行いたいことを具体的に考え、そのためには何が必要なのかを考えます。 ・社会的文化的活動時間の意義を理解し、性別役割分業にとらわれず生活設計に取り組みます。 ・将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を理解します。 <p>実習9【家計管理マスターシール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが必要か、個人でできることと、社会全体で取り組むべきことを考えます。
		②快適で安全な住まい	
第 3 学 期	3	③住まいと社会	<ul style="list-style-type: none"> ・生活する上で重要な要素が、生活資源であることを理解します。 ・自分が現在そして将来行いたいことを具体的に考え、そのためには何が必要なのかを考えます。 ・社会的文化的活動時間の意義を理解し、性別役割分業にとらわれず生活設計に取り組みます。 ・将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を理解します。 <p>実習9【家計管理マスターシール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが必要か、個人でできることと、社会全体で取り組むべきことを考えます。
		生涯の生活設計	
第 3 学 期	3	①生活資源を活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・生活する上で重要な要素が、生活資源であることを理解します。 ・自分が現在そして将来行いたいことを具体的に考え、そのためには何が必要なのかを考えます。 ・社会的文化的活動時間の意義を理解し、性別役割分業にとらわれず生活設計に取り組みます。 ・将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を理解します。 <p>実習9【家計管理マスターシール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが必要か、個人でできることと、社会全体で取り組むべきことを考えます。
		②ライフスタイルと生活設計	

3 評価の観点, 内容および方法

評価の観点	評価の内容と方法	
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費生活、衣食住などについて関心をもったか。 ・ 生活の充実向上を目指そうとしているか。 ・ 学んだことを生活に生かそうとする実践的な態度を身につけたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習ノート, レポートへの取り組み ・
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費生活、衣食住などについて、自らが課題を見いだしているか。 ・ 課題の解決を目指して思考を深め、適切に判断する力を身につけているか。 ・ 自らの考えを工夫し創造する能力を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> - 定期考査 - 学習ノート, レポートの考察内容
技能	<ul style="list-style-type: none"> - 消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> - 学習ノート, レポート
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> - 消費生活、衣食住などについて理解したか。 - 消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> - 定期考査 - 学習ノート, レポート

4 各学期, 年間の評価方法

<ul style="list-style-type: none"> ● 学期ごとの評価は、定期考査を60%、その他の評価（学習ノート、提出物、作品、授業態度等）を40%として合わせて評価します。 ● 年間の評価は1～3学期の成績を総合的に評価して算出します。
--